



こ、こんなこと
続けても...
私は屈しな...
んっ、うう...

ズン
ズン

グイッ

ズン
ズン

ヌグ

ヌグ

ヌグ
ヌグ

ヌグ

ズン
ズン



迂闊だった：
としか言いようがない。
いつものように彼と一緒に
クエストを終えた帰り道、
私たちは待ち伏せしていた
野党たちに襲撃された。

クエストでの疲労が
残っていたこと。
野党たちが明らかに
私たちの戦い方を
調べ尽くしていたこと。
色々理由はあろうが、
一番の理由は相手を侮ったこと。

人身売買を生業にしているという
彼らは、私がかつて不正を暴いた
貴族に雇われたのだという。
……そして捕まえた私のことは
好きにしていいたいと言われていることも。

消耗戦に持ち込まれた私たちの
戦いは茂みに潜んでいた伏兵に
彼が組み伏せられたことで
終わった。

私の事情に何の関係もない
彼を巻き込んでしまったことに
歯噛みする。
——私には何をしても構わないから
彼には手を出さないで欲しい。
虜囚となった私にできることは
もはやそれだけだった。



そして、私は犯された。

あまりにも呆気なく、
何の感慨を感じる間も
ないままに私の十余年
守ってきた純潔は
散らされた。

最初は痛みしか
感じていなかった。
彼に見られながら
身体を穢されることは
この上ない恥辱だったが
それでもこれも彼を
巻き込んだことに対する
罰だと思えば耐える
ことができた。

だが一日、二日と
犯され続けるにつれ
徐々に私の身体は
変わっていった、

痛みは薄れ、
男性器が膣を擦るたびに
甘く切ないような感覚が
走るようになった。

……それが彼らのいう
『快感』だとはどうしても
認めたくなかった。

へへっ、嫌がってる
振りしててもよお...

もうマンコもケツ穴も
ばっくりチンポ啜え込む
ようになってんじゃねえかw

マンコから涎だらだら
吹き零しながらな

順調に雌奴隷として
成長中っつうわけだ

.....っ
そ、そんなわけ、あぐっ
...ん、ふうう.....っ



口では否定の言葉を紡ぐが
それが虚勢に過ぎないことは
自分が一番分かっていた。

一週間に渡って犯され続けた
私の身体はすっかり別物に
変わってしまった。

膣はあれほど痛く苦しかった
男性器をあっさり啜え込むようになり、
突かれるたびに結合部からは熱い
愛液が吹きこぼれる。

穴が足りないからという
ふざけた理由で犯されるように
なった尻の穴ももう痛みを
感じなくなってしまっている。

親に逆らい、剣士として
磨きぬいてきたと自負していた
私の身体はそんな私の人生を
あざ笑うかのように
ものの一週間ほどであっさりと
はしたなく、淫らな女の身体へと
開花させられつつあった。



あん

んんん

んんん

んんん



しまった……
そう思った時には
もう遅い。

突き上げられ甘い声を
漏らしてしまえば、
周囲の男たちからは
ドッと笑い声が上がった。

羞恥で顔に熱が籠る。

卑怯で下劣な男たちを
喜ばせてしまうのが
悔しくてたまらない。

愛してもいない男に
犯され反応してしまう
女の身体が恨めしくなる。

おいおい
聞いたかよ今の

今のが嫌がつてる
女の声かねえ…?

大好物のチンポ恵んで
もらえて大喜びの雌の
啼き声にしか聞こえねえなあ…

ズッ

くう……っ

お前らいつまで
やってんだよ
さっさと変われや

んあ

俺らもさつき
変わったばかり
なんだよ

どうしてもってんなら
回の方開いてんぜ?

なっ、や、やめ——

ズッ

ん

ん

ま、穴なら
なんでもいいか

んん!!

んん

んぶう……っ
ふんじゅ……う

フタッ

回使っちゃうとレイちゃんの
可愛い喘ぎ声が聞けなく
なっちゃうんだよなあ…

フツフツフツフツ

んん…

フツ

噛むんじゃないぞ
噛んだらあのがきが
どうなっちゃうか
分かんねえからな?



口腔に男性器を
押し込まれる。
フェラチオ……
口を使った性行為。

口で男性器を
慰めるなどという
行為が存在することも
この男たちに
教えられたことだ。

知りたくもなかった
男性器の熱と味と匂いが
口いっぱい広がる。

まるで頭の中まで
犯されているかのような
感覚に苛まれ思考すら
おぼつかなくなる。

でもこいつって
マジっ気あるよなあ

三穴犯されてんのに
さつきより締まりいいぜ

ま、この手の
『私強いです』みたいな
気取ってる女は大体
そんなモンだろ

気張ってる女ほど
一回崩れたら
あつさりだよなあ

ズ
チュッ♡

ズ
チュッ♡

ズ
チュッ♡

ズ
チュッ♡

いほ♡

ん♡

ん♡

いほ♡

ん♡

あ、俺そろそろ出るわ

俺も

お前さつき
回突っ込んだばかり
じゃねえか

うっせえ
お前らと違って
昨日は一日外番だったから
たまってたんだよ

だってよレイちゃん
大好物のザーメン一気に
三穴で食れるってよ

ははっ
超喜んでら

こんだけ喜んでくれるなら
俺らも出し甲斐があるわなw

んーっっ!!
んーっっ!!



ふいり
出した出した

鍛えてるだけあって
良い締めまりしてんよな
しっかり絞ってくれるぜ

ゼクッ♡

あ……♡

ああそういや
今度俺らの
雇い主サマが
お前に会いに
来てくれるらしいぜ

ゼクッ♡

へえよかったじゃねえか
レイちゃん
仕上がる前にご主人様が
決まることなんて
あんまないぜ？

ズッ♡

ドッ♡

気に入ってもらえるよう
その日までにしっかり
男への媚び方
学んでおかねえとなあ？

う……♡

気に入ったら
引き取っても
いいよ

ゼクッ♡

あ……う……

ゼクッ♡

はぁ……♡

はぁ……♡

はぁ……♡



大丈夫。
私ともかく
彼は知り合いが多い。

一週間も行方を晦ませば
きっと彼を探す者が
たくさんいるはずだ。

だからあと数日も
耐えればきっと
助けが来る。
あと数日だけなら
私は耐えられる。

だけでもし
助けが来なかったら……？

また一週間か、それ以上……
男たちに犯され続けたら……
私はどうなってしまうのだろう。

再び突き入れられた
熱く硬い感覚に身体を
揺さぶられながら、
逃避するように
私の思考も熱に
溶かされていった……。

レイ

所属ギルド：

トゥインクルウィッシュ

年齢：18歳

身長：163cm

体重：46kg

趣味：読書、乗馬、お茶

非常に腕の立つ魔族の剣士。真面目で責任感の強い性格。上流階級出身のお嬢様だが、貴族社会に馴染めず現在は出奔中。

その真面目な性分と出自故か仲の良い友人に恵まれず、嫉妬深いところや寂しがりな面がある。
一方で自身の欠点を自覚し落ち込むこともしばしば。

同じギルドに所属する少女の恋路を応援すると同時に、その少女の想い人を自身も憎からず思っている。

すれ違う人が振り返るほどに整った美しい顔立ちは異性だけでなく同性をも惹きつける。

胸は控えめだが、全体的に均整の取れた美しい肢体。男たちに開発され順調に感度が高まりつつある。

しなやかに鍛えられた肢体は男のモノを啜え込む際に適度に締めりえも言われぬ快楽を与える。

野党の男たち(今回の竿役)

レイ様たちを捕らえた人身売買を生業とする野党たち。
腕のいい女術を多く抱えており男と快楽に従順な質の高い女奴隷を仕上げることからランドソルや諸外国の有力者にも顧客は多く、彼らが都度逃走や活動を幫助しているため中々捕まらない。





















